大阪学芸中等教育学校
校 長　　柴 田 俊 次

平成２９年度　学校経営計画及び学校評価

１．めざす学校像

【学校像】
「豊かな人間性をはぐくみ、社会に貢献できる青年を育成する」という『建学の精神』をもとに、学校教育を通じて地域社会からの信頼や期待に応えられる学校、生徒が何歳になっても誇りを持って語れる学校、教職員が生徒の満足を自らの喜びにできる学校づくりをめざす。
【生徒像】
○お互いの人権を尊重し、学校や地域社会の中で協力・共同できる生徒
○社会的規律を尊重し、豊かな情操を身につけ、責任ある行動がとれる生徒
○国際社会において活躍するために、たくましく生きる力を身につけた生徒

２．中期的目標

「基本的な生活習慣を確立および大学進学実績の向上」という重点目標の達成をめざし、各部署・各学年で４月当初には活動方針を策定する。できる限り目標を数値化し、その目標を達成するための具体的な方策を立案する。11 月に進捗状況、3 月に目標達成状況（総括）を校務会議・職員会議で報告し、次年度への課題を明確にしていく。

１．生徒指導を基盤にした学習指導と進路指導を確立する。

（１）学力向上と進路実現

生徒が６年間の中で自らの進路目標を持ち、自己実現できる進路を獲得できるよう取り組む。

ア．進路指導に即した学習指導を展開し、学力を向上させて希望する進路を実現させる。
イ．教科会議を充実させ、授業内容の点検や指導法の研究を行い授業力向上に取り組む。特に、高大接続改革を見据え指導法の工夫が必要である。
ウ．前期課程の段階から学問探究団「ＲＹＳ」（論より証拠）や総合的な学習の時間「学芸ＥＳＤ」のを取組みを通して、自分の進路に対する意識を向上させる。前期課程３年生からどの進路を選ぶことがふさわしいかを考えさせ、後期課程４年生から文理選択を行う。
エ．後期課程での放課後講習、合宿講習、６年生での入試対策講座やセンター試験後の個別指導で、自学自習の習慣を身につけさせ、自己の進路を自らの力で切り開く姿勢を育成する。

（２）基本的生活習慣の確立

学力向上の基盤は「基本的な生活習慣の確立」と大きな関係がある。すべての教育活動を通じ「素直に人の話を聞ける生徒」「挨拶のできる生徒」「ルールを守れる生徒」の育成に努める。

ア．コミュニケーション能力を育成し、良好な人間関係を構築することで、学校生活への満足度を高める。
イ．いじめを許さず、生徒全員が安心して登校できる学校づくりをめざす。
ウ．校内および通学途中における服装の乱れをなくし、マナーを守ることのできる社会性を育成する。

（３）社会性・協調性の育成

少子化・核家族化の影響で親の過保護・過干渉の中で育ってきた生徒たちは、自己中心的な性格になりがちであり、協調性や耐性に欠ける面がみられる。建学の精神にある社会に貢献できる人間を育成するための取り組みを教育活動全体の中で実施し、自己肯定感を高めていく。

ア．体育祭や文化祭等の行事や人権教育・土曜講座などの取組みを通して他者への思いやりや協調性、自分の意見を相手に伝える力（コミュニケーション能力）を育成する。
イ．限られた時間や施設での部活動だが、その中で持続力や耐性を養い、協調性を育成する。
ウ．セレッソ大阪のボランティア活動やエコ活動を通して、社会への関心を高めるとともに奉仕の精神を育成する。

２．保護者に信頼される学校づくり

（１）保護者への情報提供

公立中学校と違い「校区という地域」を持たない完全６年一貫の本校は、保護者との連携をいかに図っていくかが大きな課題といえる。

ア．三者面談や保護者会・進路説明会を通して学校生活の様子や卒業後の進路を保護者とともに考える中で、信頼関係を築いていく。
イ．進路ガイダンスを充実させ、生徒の進路希望を担任が十分把握し、保護者と生徒の願いを学校が受けとめることにより、信頼関係を築いていく。
ウ．学校生活の様子をホームページ等で情報発信する等、開かれた学校づくりを進めることで保護者との信頼関係を深める。

（２）危機管理体制の確立

地球温暖化の影響から豪雨・巨大台風の上陸をはじめ、いつ発生するかも知れない地震への対応を考え、生徒の安全を第一にした防災体制を構築していくことが求められる。

ア．避難訓練を通して集団で避難するときの心得を育成し、災害に備える。
イ．学校として帰宅困難となる生徒が出た場合を想定し、保護者との連絡体制を整えていく。

【自己評価の結果と分析・学校協議会の意見】

＜自己評価の結果と分析＞

□学力向上と進路実現

・本校は完全６年一貫教育で国公立大学や有名私立大学の合格をめざす進学校で、学力向上と希望する進路の実現が生徒・保護者の一番の願いである。授業アンケートの「学力向上への実感」が全体を通じて１回目から２回目と増加していることから、その効果が実感できている生徒が増えてきていると考えられる。昨年度整備した全教室への電子黒板設置やWi-Fi 環境で、ＩＣＴ機器を活用した生徒の興味や関心を引く授業づくりが成果を挙げていると考えられる。
・教員の授業力向上に向け、年２回の授業評価アンケートを実施した。経年比較をしながら教員が自己分析をして授業力向上につなげるために、今年度から自己評価シートを提出させ指導助言を行った。また、教科会議で分析を行い、評価シートを提出させた。分析した後、内容を整理してまとめることで、教員の意識は上がりつつある。
・学校評価の保護者アンケートで「全科目にわたり学習指導は充実しており、学力向上に十分な成果を挙げている」という問いに対し、肯定回答は、前期課程43%、後期課程47%であり、全体として留保回答が約12%を占める。テストの点数等、目に見える成果を重視して判断する保護者が多いように思われる。
・保護者アンケート「進路指導は充実しており、生徒の希望進路の発見・実現に十分寄与している」の肯定回答は、学年が上がるにつれて増える傾向にある。同時に留保回答は学年が上がるにつれて減じている。6 年間系統的に取り組む「国公立大学合格支援プログラム」に基づく指導を更に充実させていく必要がある。特に、高校入試を経験しない本校では、前期課程の段階から進路に対する意識の向上を図るよう指導していくことが大切である。また、将来を見据えた「RYS」などの取組みを通し、学年が進むにつれて将来の夢や進路について考えるようになってきている。6 年間をかけて大学進学を目指していく中で、将来を見据えることは重要なポイントである。
・６年間を見据えたカリキュラムを組んでいるが、途中でつまずいてしまうとそれが最後まで影響してしまうということが６年一貫校の弱点の一つでもある。生徒のモチベーションを６年間維持することは非常に難しいが、やはり教員の授業力を高め、生徒の理解度を高めていくことが重要な課題であるとともに個別指導も充実させる必要がある。
・新大学入試改革の動向を見据え、内容の研修を深めるとともに、指導法の研究を進める必要がある。

□基本的生活習慣の確立

・各種調査から、基本的生活習慣と学力の伸びとは大きな相関関係があると報告されている。普段の生活の中で、時間を守る、服装や頭髪などルールを守る、大きな声であいさつをする等、基本的な生活習慣の確立が大切である。その根幹にあるのが、人の話を素直に聞く、自分の気持ちを自制するという心の育成である。遅刻指導や生活点検などの取り組みを継続して行い、定期的な二者面談で生徒理解に努めているが、まだまだ不十分である。
・例年、前期課程の生徒に人間関係のトラブルが多いという結果を真摯に受け止め、集団育成の観点を持ち生活指導を推進していくことを今年度大きな目標とした。保護者アンケートの「生徒指導は充実しており、規範意識と自律性の育成に十分な成果を挙げている」という問いの肯定回答は、前期課程で13 ポイント上がっており、学年ごとの週１回の集会指導が成果を挙げている。次年度は、毎週月曜日に前期集会を行う予定である。
・保護者アンケートの「子どもに獲得させたい資質」という問いの回答として、「学力・知力」に次いで「自主自律の姿勢」「協調性・社会性」「将来を切り開いていく力」が上位を占めている。学力向上とともに豊かな人間性を培う指導を充実させる必要がある。

□社会性・協調性の育成

・すべての教育活動を通して社会性や協調性を育む取り組みを進める必要がある。社会性や協調性を育てるために様々な教育活動をキャリア教育の視点から見直す必要がある。現在行われている様々な活動がそれぞれの学年のキャリア発達に応じた取り組みとなるように、あるいは、様々な活動が単発ではなく有機的な繋

＜学校協議会の意見。

□学力向上と進路実現

・高校入試を経験しないのは、メリットとデメリットの両面が考えられるが、３年生での先取り学習などを含め年間指導計画のシラバスを保護者や生徒にもっと周知する必要がある。
・6年間を見据えた「国公立大学合格支援プログラム」でそれぞれの学年でのポイントを明確にしているのは良いことである。特に、前期課程の中学生の段階では進路はまだまだ先だと思っている生徒が多いと思うが、「ＲＹＳ」に積極的に参加を促すなど、進路への意識を向上させて欲しい。また、今後、教員数も減る中でより効率的な指導が望まれる。
・大学合格実績が出ていない。ここ数年低迷しているのではないか。原因をしっかり分析し、進路実現に向けて 6 年間を見据えたより系統立てた取組みの充実が望まれる。
・生徒のやる気をいかに喚起させるかがポイントである。今年度の１年生から一人一台のタブレットを購入しているが、どういう点で効果があったかもう少し分析してください。
・電子黒板やタブレットは、あくまで授業改善の一つのツールである。指導する教員の人間的な魅力が教育の根幹である。ＩＣＴ機器に頼りすぎていないか、常にチェックして欲しい。
・授業アンケートの結果を教員がしっかり自己分析させるために、教員一人一人に自己評価シートを提出させることは良いことだと思う。
・管理自習室で夜遅くまで学習する生徒も増えてきているのは良いことだと思う。やはり、自学自習の習慣を身に着けさせるためには、全体の雰囲気づくりが大切ではないか。
・大学入試制度改革の動向を見据え、何がポイントなのか、しっかり研究・研修を積んで、授業づくりに活かして欲しい。

□基本的生活習慣の確立

・普段の生活の中で、時間を守る、あいさつをする等は家庭のしつけの一環である。特に、遅刻指導は家庭教育の占める割合が大きいと思う。しかし、どちらの役割というのではなく、学校も家庭と連携しながら指導をしないと、社会に出てからが心配である。
・特に前期課程の中学生の生活指導をしっかりやっていくことが、後期課程につながると思う。勉強だけでなく、ルールを守るという規範意識の醸成が不可欠である。規則は強制されるものではなく自らまもるべきものであるということを教えて欲しい。
・中高の 6 年間は思春期真っ只中で、心身ともに大きく成長する時期である。何事も一律にとらえるのではなく、発達段階に応じた指導が必要である。前期課程でトラブルが多いと聞くが、粘り強く心に寄り添う指導を行って欲しい。
・集団の中で人間関係を教えることが出来るのはもはや学校だけである。自主自律の育成には、生徒会活動や集会指導の充実が望まれる。集団を育てるという観点も大切と思う。
・もうすぐ道徳が教科化される。豊かな人間性を育てるために、道徳教育にもっと取り組んで欲しい。

□社会性・協調性の育成

・6年間の中で自分が将来を見つめ、志望大学に合格するということを実現させていくというキャリア教育の視点を持って取り組んでいる「ＲＹＳ」や「ＥＳＤ」を更に充実させて欲しい。そして、いかにこの取組みを生徒募集につなげていくか考えて欲しい。

がりをもつように、部署間で連携し、横断的にその内容を検討する必要がある。 ・行事は、文化祭と体育祭を中等祭として２日連続で実施するのが２回目である。特に、縦割りの団を編成して取り組む体育祭は、学年を超えた一体感を生み出し大いに盛り上がった。また、本校唯一のクラス対抗の行事、コーラスコンクールも大きな成果を挙げたが、生徒数減少に伴う行事の見直し・精選が必要である。 ・取組み開始から５年目を迎えた学問探究団「ＲＹＳ」の取り組みは、生徒が社会に触れることで、将来のイメージが膨らみ、学習意欲も向上するという大きな成果を上げている。例年以上に充実したプログラムを実施し、のべ 646 名、実参加者 307 名で全校生徒の約半数が参加している。 ・セレッソ大阪のホームゲームでのボランティア活動は計９回実施した。年々登録を希望する生徒が増え、取り組みが定着している。また、サポーティングマッチでは RYS とのコラボ企画「ユニクロ服の力プロジェクト」を実施している。 ・土曜講座、イングリシュキャンプ等が、２ 年目のプログラムである。生徒の満足度も高く定着してきた。土曜講座は各部署にゆだねて取り組んでおり、系統立てた整理が必要である。 □保護者への情報提供 ・中学・高校という思春期真っ只中の生徒が６年間本校で過ごす中で、いかに学校生活における満足度を高めていくか、保護者や生徒の期待に応えられるかが学校としての大きな課題である。 ・完全６年一貫の本校への期待をしっかり受け止め、教育活動に従事しなければならない。そのためにも一人一人の生徒の心に寄り添う指導を推進する必要がある。保護者アンケートの「担任は相談しやすく誠実に対応してくれる」という問いに対し、80%を超える肯定回答がある。まだまだ十分ではないが、規模の小さな学校で、教員と生徒の関係は非常に重要である。本校は創立当初より教員と生徒の距離が近いことが特色の一つである。そうした良い面を生かし、生徒の満足度が高まるよう努力していく必要がある。 ・私立学校は、公立中学校のように校区を持たないため、保護者への情報発信が信頼関係を築いていくうえで大切な要素となってくる。保護者アンケートの「ホームページの充実」についての問いに対し、約 70%の肯定回答がある。特に１年生はタブレットを活用し配布文書を発信している関係もあり、肯定回答が 83%であった。年次進行していく一人一台のタブレットの活用は、今後有効なツールとなると考えられる。同時に、ホームページを一層充実させ、学校の様子・生徒の活躍している姿をタイムリィーにわかりやすく伝える工夫をする必要がある。 □危機管理の体制 ・学芸高校、同附属中学校との合同避難訓練を通して集団で避難するときの心構えを伝えた。また、３年生は住吉消防署の協力を得て防災訓練を実施した。 ・本校は大和川の南からの通学者が約 30%在籍し、豪雨による氾濫・通行止めにより帰宅困難になる生徒が多く出ることも予想される。各自が防災セットを購入し教室に保管している。	・「ＲＹＳ」や「ＥＳＤ」でプレゼンテーションやディベートを行い、大学入試改革でも言われている思考力や判断力などの力をつけてくれると期待している。 ・大阪マラソンのボランティアに私の娘も参加し、活動の素晴らしさを学んだ。ボランティア活動は、社会性や協調性の育成に大変有効である。自ら手を挙げ参加する生徒を多く育ててください。 ・１年生から６年生までがひとつになって取り組む学校行事は、中等教育学校の大きな特徴である。生徒数が減っていくが異学年交流を増やしていって欲しい。 ・普段の生活で「困っている人がいたら助けてやろう」という姿勢を子どもたちに植え付けて欲しい。 □保護者への情報提供 ・学校の取組み等をどんどん情報発信することが大切である。 ・ホームページがタイムリィーに更新されているので、学校での様子がよくわかる。保護者だけでなく、生徒募集にも繋がって行くと思うので、一層の充実を望みます。 ・保護者アンケートで「担任は誠実に対応してくれる」という問いの肯定回答が 80%を越えている。より一層、丁寧な対応を心掛けて欲しい。一方、中等教育学校は、先生と生徒の距離が近いと言われているが、子どもの甘えに繋がっていないか考えてください。 ・校区がないので、家庭との連携は電話が中心になるが、状況に応じ、特に前期課程では家庭訪問も必要ではないか。 ・タブレットを使った保護者への文書配信は有効である。 ・ホームページやＳＮＳの活用は時代の流れだと思うが、直接会って話をする機会も大切であることを常に念頭に置いてほしい。特に、前期課程の親はそのように考えていると思う。 □危機管理の体制 ・災害はいつやってくるかわからない。常に、危機管理体制は常に万全を期すことが求められる。引き続き各教室に防災セットを配備しているのは良いことだと思う。また、それらのセットにいたずらがないのは、生徒たちの防災に対する意識の高さだと思う。

３．本年度の取り組み内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
	１．学力向上と進路実現に向けた取り組みの強化 (1) 生徒による授業満足度を上げる。 (2) 自学自習の態度を育成し、意欲的に学習する姿勢を身につけさせる。	本校は創立当初より、６年間でしっかり学力を身につけ、国公立大学・有名私立大学の合格をめざして教育実践を行ってきた。自らの進路を見つけ、実現していくことが、生徒・保護者はもちろんのこと、我々教員の願いでもある。 多感な中高時代を本校で過ごしていく中で、着実に学力をつけていくことが望まれる。そのためにも我々教員は「きめ細かな学習指導」を行う必要がある。	(1) 授業アンケート「理解度」の指数（肯定回答−否定回答）を 65%以上にする。	私立の中高一貫校にとって、しっかりとした目標を持ち、６年間で確かな学力を身につけることが、自らの進路実現につながっていく。 そのためにも、生徒が「わかる喜び、学ぶ楽しさ」を体感できる授業づくりが大切である。 ○アンケート１　「先生の授業（説明や指示）はわかりやすいですか」の指標（授業アンケート２回目） 前期課程：全体 61% １年 81%　２年 59%　３年 54% 後期課程：全体 68% ４年 72%　５年 65%　６年 66% １回目に比べ４年生が７ポイント上がっており、他の学

学力向上と進路実現	(3)希望する進路を実現させる。	(1)進路実現のために「わかる授業」を生徒たちに保障する。 (2)多様な進路希望に対応した学習指導を充実する。 (3)生徒の夢の実現をともに喜ぶ教師集団をめざす。		年はほぼ同様の結果である。肯定回答は、どの学年も約80%であり、前期課程の段階で基礎学力をしっかりと定着させる取組みを進める必要がある。 また、生徒のコメントに、28 年度にスタートした電子黒板を使った授業に興味関心を引くという内容が多く見られた。また、29 年度の新入生からタブレットを一人一台持たせ授業で活用した。昨年の 1 年生に比べ、13 ポイントあがっているという結果は特筆できる。また、ＩＣＴ機器を活用した公開授業を 5 教科で実施した。今後も教科会議を充実させ、授業づくりの研修を深める必要がある。
			(2)授業アンケート「意欲度」の指数（肯定回答－否定回答）を60%以上にする。	○アンケート２「あなたにとって先生の授業は意欲的に取り組める授業ですか」の指数（授業アンケート 2 回目） 前期課程：全体51% 1年64% 2年44% 3年49% 後期課程：全体66% 4年69% 5年61% 6年71% １回目に比べ、1年が7ポイント下がり、6年が8ポイント上がっている。1年は少しずつ学習内容が難しくなってきたことが一因と思われる。また、6年は進路に向けて意欲的に取り組んでいる結果である。大学受験が近づき当然と言えばそうあるが、早い時期からこの指数をさらに高める努力は必要である。教科によって差異はあるが、すべての学年で否定回答をしている約 2 割の生徒の指導が大きな課題である。生徒の理解を深め、個別指導を充実させる努力が必要である。
			(3) 授業アンケート「学力向上度」の指数（肯定回答－否定回答）を40%以上にする。	○アンケート３　「先生の授業をうけることで、あなたの学力や知識に変化を感じましたか」の指数（授業アンケート２回目） 前期課程：全体32% 1年52% 2年21% 3年30% 後期課程：全体44% 4年55% 5年33% 6年48% 昨年度に比べ、前期課程では 8 ポイント、後期課程では12ポイント上がっている。また、1回目に比べ、全体の指数が前期課程は3ポイント下がり、後期課程は9ポイント上がり、全体として目標値をクリアーしている。特に、4年生が12ポイント、6年生が16ポイント上がっている。進路の本番目前ということが考えられるが、もっと早い時期からの継続した指導が望まれる。 また、前期課程で基礎学力の定着に向け、ＩＣＴ機器を大いに活用し、興味・関心を引く授業づくりを心掛ける必要がある。
			(4)保護者アンケート「進路指導」の肯定回答を60%以上とする。	○アンケート４　「進路指導が充実しており、生徒の希望進路の発見・実現に十分寄与している」の肯定回答した保護者 前期課程：全体46% 1年48% 2年35% 3年55% 後期課程：全体56% 4年53% 5年49% 6年60% 例年は、学年が上がるにつれて肯定回答が増える傾向が見られるが、学年により差異がみられる。後期課程全体では、6年生が昨年より9ポイント下がっている。後期課程に入り自覚が高まっているが、最後まで粘り強く指導を続けることが望まれる。前期課程の留保回答は1年45%、2年30%、3年18%ある。早い段階から、有効な情報を提供していくなど、大学受験を意識づけると共に、これからの社会を見据え、職業感を意識できるよう、「ＲＹＳ」「ＥＳＤ」などの取組みを充実させる。
			(5)「管理自習室」の利用を促進する。	○28 年度より自学自習の習慣を身に着けることを目的に「管理自習室」を開設した。開設日数 226 日、のべ

				利用者数3786名で半数近くが6年生であった。29年度は開設日数237日、のべ利用者数4533名で、前年度より約750名の増加であった。自学自習の習慣が定着しつつある生徒が増えてきている。
基本的生活習慣の確立	２．規律ある学校生活の確立 ⑴規範意識と自律性の育成 ⑵人間関係の構築	中高6年間を本校で過ごす中で、子どもから大人へ大きく成長する過程が見られる。身体も心も大きく成長する時期であり、集団の中で規範意識を高め、人間関係を構築する態度を身に着けさせる。常に教員は生徒の心に寄り添い、公平な目で生徒を指導できるようにする。また、相手の立場を踏まえた適切なコミュニケーション能力を育成する。 一日の大半を過ごす教室の管理は学級経営に欠かせないもので、美化・清掃に心がける。 ⑴ガイダンスに定められた事項をきっちり守れるよう、常に意識をさせる。ルールに沿って学校生活が円滑に進むよう指導する。 ⑵「いじめ事象」に関しては、いじめ防止対策委員会を組織する。いじめアンケートを実施することで、「いじめ」を抑止するとともに「いじめ事象」には担任だけでなく、教職員全体の問題として取り組む体制をつくる。 ⑶教室の学習環境を整備するため、清掃・美化活動を徹底する	⑴保護者アンケート「生徒指導」の肯定回答を60%以上にする。 ⑵個々の生徒理解に努め、学校生活に対する生徒の満足度を高める。 ⑶保護者アンケート「公平な対応」の肯定回答を80%以上にする。 ⑷教室の環境整備に努める。	生徒にとって学級こそ学校生活の居場所であり、落ち着いた雰囲気で規律性を保っていないと、目標の達成にはならない。 〇アンケート１「生徒指導は充実しており、規範意識と自律性の育成に十分な成果を挙げている」の肯定回答をした保護者 前期課程：全体53%　1年60%　2年48%　3年49% 後期課程：全体56%　4年53%　2年53%　6年63% 全体は55%で、昨年と同じであるが、前期課程は13ポイント上がり、後期課程は5ポイント下がっている。習熟度別クラス編成なので学習意欲に違いが見られるが、全般に落ち着いた学習環境を維持することが大切である。特に、前期課程では、集団育成の視点を持ち、生徒のコミュニケーション力や問題解決力を高めていく必要がある。29年度は、前期課程では学年集会を毎週行った成果が表れている。次年度は、毎週月曜日に前期課程の集会を行う予定である。 〇学期に1回、いじめアンケートを実施するとともに、定期的に担任との二者面談を行った。相手の立場を踏まえた適切なコミュニケーション能力を育成し、言葉の行き違いから「いじめ事象」に発展しないよう、考えて行動する習慣の確立をめざす。「いじめ事象」が発生した場合は、いじめ防止対策委員会で協議し厳格に対応していく（昨年度は1件）。また、学級で起こる様々な問題について生徒に考えさせ、クラス全体でいじめ防止に取り組ませる指導も大切である。日々の教育実践を通じて、生徒と教員との信頼関係を構築し、生徒がいじめ等の悩みを打ちあけやすい雰囲気づくりに努める必要がある。人間関係で不安を持っている生徒に対しては、学校カウンセラーとも相談し、対処するように努めている。 〇アンケート２「担任は相談しやすく誠実に対応してくれる」の肯定回答をした保護者 前期課程：全体82%　1年90%　2年78%　3年78% 後期課程：全体81%　4年86%　5年80%　6年77% 前期課程、後期課程ともに目標値を上回っている。学校生活において、生徒と教員との信頼関係は生徒指導の根幹をなすものである。二者面談を始めきめ細かい声掛けが功を奏していると思われる。アンケート結果から概ね教員との関係は良好のようであるが、今後も教員が分け隔てなく生徒に接するとともに、生徒の心に寄り添う指導を進めていく。 〇学年が上がるにつれ、美化の意識が下がっているように思われる。規律ある学校生活、学習環境の確保には教室の美化は欠かすことはできない。常に掲示物、私物の整理など日々クラスで指導を行っており、担任・学年を中心に教室の美化を強化し、学習環境を整えていく努力が必要である。
	３．社会性・協調性の育成 ⑴ボランティア活動の充実	⑴地域貢献活動やボランティア活動に取り組み、豊かな社会性の育成を図る。	⑴ボランティア活動に参加を促す。	〇セレッソ大阪のホームゲームでのボランティア活動は登録する生徒が年々増えている。今年度は、計9回行った。また、5月のサポーティングマッチでは「ユニクロ服の力プロジェクト」を昨年度に引き続き実施し、取り組みの拡充を図った。また、RYSの取組みで、大阪

社会性・協調性の育成	⑵クラブ活動の充実 ⑶行事の精選	⑵クラブ活動や学校行事に関しても、様々な活動を通して生徒の協調性を高める。	⑵クラブ活動に関しては、工夫して活動する。 ⑶学校行事を通して生徒の協調性を高めていく。	マラソンのボランティアにも 51 名の生徒が参加した。 ○クラブ活動は、週 3 日間という限られた時間・施設の中での活動ながら、校外の公式戦にも積極的に参加し、成果をあげている。生徒のニーズに応えるため、次年度はダンス・将棋・書道の同好会を発足させる予定である。 ○体育祭や文化祭は本校の伝統行事として続いてきている。中等祭として 6 月上旬に 2 日連続で開催して 2 年目である。生徒会を中心に新しい企画も行い、スムーズな進行ができた。また、唯一のクラス対抗の行事であるコーラスコンクールも大いに盛り上がった。他の行事や取組みも、生徒の協調性を育むべく、事前・事後指導を丁寧に行った。反省をしっかり行い次年度に活かしていきたい。また、今後の学級減に伴い、更なる見直しが必要である。
保護者に信頼される学校づくり	**4．積極的な情報発信と保護者との連携** ⑴保護者との信頼関係の構築 ⑵進路情報などの積極的な情報発信 ⑶防災への取り組み	私立学校は校区を持たないため、保護者への情報発信が信頼関係を築いていくうえで大切な要素となる。 防災訓練等の安全生活に対する取り組みも緊急の課題であるという認識が必要である。 ⑴ホームページの充実およびタイムリーな情報発信 ⑵保護者との連携強化 ⑶防災意識の向上	⑴保護者アンケート「情報発信」の肯定回答を80%以上にする。 ⑵保護者アンケートの「この学校に入学させてよかった」という満足度を 70%以上とする。 ⑶防災意識を向上させる	私立学校にとって、在校生の保護者が学校の良さをアピールしてくれることが最大の募集活動と言える。そのためにも、学校の様子を情報発信し、保護者の信託に応えた学校づくりをしていくことが大切である。 ○アンケート１「学校のホームページは充実しており必要な情報を得ることができる」の肯定回答をした保護者 前期課程：全体 73%　1 年 83%　2 年 67%　3 年 70% 後期課程：全体 63%　4 年 66%　5 年 61%　6 年 60% 年々、家庭におけるインターネットの環境も整い、スマホも急激に普及している。学校の様子を情報発信するＨＰの役割は年々大きくなっている。今年度より、1 年生は、配布文書を紙媒体ではなく、すべてタブレットを通して送信している影響もあり、目標値をクリアーしたと考えられる。他の学年は、昨年と同様に留保回答が 15%前後あり評価指標に届いていない。さらに情報発信できるよう、ＨＰを整理し、常に新しい情報を発信するよう努め、保護者に周知する仕掛けが必要である。授業参観や保護者会を設定し、個別に３者面談を学期に１回開催しているが、さらに情報を保護者に提供するように努める。 ○アンケート２「入学させてよかった（知り合いや親戚にもこの学校を勧めたい）と思う」の肯定回答した保護者 前期課程：全体 52%　1 年 64%　2 年 46%　3 年 45% 後期課程：全体 50%　4 年 52%　5 年 45%　6 年 51% 昨年度と同様に、全体として評価指標を下回っている。本校は、例年在校生や卒業生の弟妹が数多く入学していることからも、着実に信頼を得ていくことは非常に大切である。全体として評価指数を上げるためには、さらに丁寧な対応が必要である。教育課程や学習指導・進路指導・生活指導等すべての教育活動においてその要因を分析し、さらに信頼度を高めていく取組み必要がある。 ○防災への取り組みは、高校・附属中との合同避難訓練の他、住吉区役所や住吉消防署と連携し 3 年生が防災研修を行っている。今後一層、公的な機関とも連携を図る必要がある。また、本校は大和川以南からの通学者が約 30%在籍している。豪雨による氾濫・通行止めにより帰宅困難になる生徒が多く出ることも予想され、各自が防災セットを購入し教室に保管している。